

「ヤッコ， 仲里節の伝承活動の取組」

1 学校名

和泊町立国頭小学校

2 学年・人数

小学1年生から6年生（計84人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

夏休み期間中のラジオ体操実施日，大運動会前9月，2月
（国頭小学校体育館やオープンスペース，運動場）

（2）発表の日時・場所

2学期の大運動会（国頭小運動場），
2月の和泊町子ども芸能発表会（町体育館）
夏休みの宮崎県三股町との芸能交流（国頭研修館）
敬老会（各字公民館）
出演依頼があった時（年3～4回程度）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

ヤッコ，仲里節（ナカザトブシ）

（2）由来

① ヤッコ（平成20年発行「国頭芸能のあゆみ」より抜粋）

琉球から渡ってきたものと思われる。今から400年程前，とても踊り好きの人が沖縄に渡って習い覚えた4つの踊りが，とてもユーモアたっぷり，しかもひょうきんな踊りであったので，4つの踊りを組み合わせてヤッコと名付け，現在に踊り継がれており，沖永良部島の国頭地区に残る名物踊りである。

② 仲里節（ナカザトブシ）（平成20年発行「国頭芸能のあゆみ」より一部抜粋）

「琉歌百控」には久米島仲里間切に起こった歌とあるが，伊平屋島の仲里説，また仲里は，仲島のことだとする説もある。地名ではあるが確定はできないようだ。

琉球服属時代，公的または私的に琉球との交易があり，この時代を「那覇の世」と呼び，太平無事な黄金時代として，那覇旅行，那覇見物は当時の島民のあこがれだった。日頃琉球の民謡と踊りを見て稽古に意欲を燃やしていた方々が，琉球の人々の中に入って踊られた中の1曲が「仲里節」である。

(3) 構成等

① ヤッコ

二組に分かれ、舞台の左右から出てきて、前後二列で踊り、それぞれ出てきた方向と反対側に引っ込み、四つの踊りごとに交互に出入りを繰り返す。踊る人数は特に限定されず、ステージの広さ、場所の広さによって調整して踊る。頭に鉢巻、紋付き袴を伊達巻で着衣、白布でたすきをかける。足は白黒の脚絆で巻き、黒の足袋を履く。

② 仲里節

沖縄の仲里節は、男女のペアで踊るものであるが、国頭の仲里節は女性4人1組で四ツ竹を両手に持って踊る踊りである。踊りは4番までであるが、それぞれ一曲ごとに毎に隊形をかえて踊るのが特徴的である。

5 保存会や地域との連携の具体

郷土芸能である「ヤッコ」「仲里節」は、昭和45年から郷土教育の一環として、学校教育の中に取り入れられたことに始まり連綿と続いているものである。秋季大運動会や子ども芸能発表会、地域の様々な行事が発表の場である。踊りの指導は、国頭芸能振興会の皆さんが、夏休み期間中のラジオ体操実施日やそれぞれの行事の前に放課後等の時間を利用して指導している。秋季大運動会では、「ヤッコ」を全男子児童で踊り、「仲里節」を全女子児童で踊るが、この時は、保護者や地域の皆さんも踊りに加わり大いに盛り上がる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

国頭芸能振興会の皆さんの御指導の下、秋季大運動会や子ども芸能発表会などの行事、地域行事で1年生から6年生の全児童が「ヤッコ」や「仲里節」を踊るようになって久しい。踊りと共に学校のクラブ活動の三味線クラブ、同好者で組織する三味線教室もあり、沖永良部や国頭に伝わる郷土芸能の保存・伝承に努めている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



「ヤッコ」の練習風景



「仲里節」の練習風景



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 「ヤッコ」, 「仲里節」は, かなり昔から行われていると聞きました。ぼくは, 最初「ヤッコ」を踊るとき, 難しそうだなと思っていましたが, 運動会や敬老会とかにやっていると, だんだん分かってきました。ぼくは「ヤッコ」の4番が苦手です。動きが速くて難しいからです。また, 運動会的时候は公民館と違って広いので, 踊りと踊りの間の移動が大変でした。ぼくは小学生の中では踊れるほうです。後ろにお父さんたちがいて緊張するけど踊れます。伝統芸能というものは, 必ずなくてはならないものだと思うので, ぼくも続けていきたいと思います。〔参加児童〕
- ・ 平成4年に「豊かなむらづくり天皇杯」を受賞した際に, 「多くの審査項目の中で, 豊かな芸能文化があり, それらが次代を背負う子どもたちに伝承されているからである。」と審査員が評していた。運動会で大人と一体になった全男子の「ヤッコ」, 全女子の「仲里節」の演技は, 見る人に大きな感動を与えている。〔国頭芸能振興会〕
- ・ 国頭の伝統芸能について学ぶ機会をいただき, 地域の方々とふれあう中で, 伝統芸能継承への御尽力の大きさを直接肌で感じる日々です。敬老会や御祝いの席などで老若男女が踊り興じておられるのを拝見するたびに, その素晴らしさを感じます。今後, ますます盛んになっていくことを切に願います。〔教員〕